

## インターバンクの声（2016年4月19日）

昨日は比較的静かな値動きが続いた東京市場の後、ロンドンの朝からニューヨーク市場の中盤まで豪ドルやカナダ・ドルが随分上昇した。ドル円も1円近く円が売られたことから、豪ドルやカナダ・ドルの対円レートはそれぞれ約2円も円安が進んだ。週末に開催された20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議の後にルー米財務長官が「最近の円高や為替市場の動きも秩序的だ」と発言、円高が進めば為替介入を実施したいと考えていた日本にとってハードルが出来てしまった。また、ドーハでの産油国会合では増産凍結に向けた合意も不発に終わり、熊本の地震もリスク回避を助長させる材料になり、週明けは再び円買いが進んでもおかしくない条件が揃っていた。円買い相場を半分覚悟して臨んだ東京市場だったが、社内外のディーラーは「粘りますねえ」と意外にドルの下値が堅かった相場に感心しきりだった。東京での円買いをしのいだ後、海外市場では原油価格がクウェートでのストライキによって生産が減少しているなどの報道に反発に転じ、熊本の地震も日本の為替介入を容認しやすくするとの見方も円買いを食い止めることになった。ただ、109円台の上値の重さは簡単に変わることはなさそうだ。勝負はここから月末に掛けてになりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。